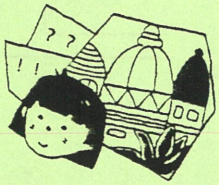
図書館だより

ところと地理　　No. 9　1991. 1.15

京都大学教養部図書館



近年、交通や通信技術が発達し、住んでいるところだけでなく、内外の知らなかった土地に対しても大きな関心を払うようになりました。

今回は「ところと地理に関する情報」について、主な参考図書を紹介します。

1. 地理関係文献・事項等に関する情報……地理情報を含むレファレンスブック

●書誌

図書や雑誌から地理情報を求めるときには、書誌・目録・索引などの二次情報を利用したほうがよいでしょう。地理学および地誌関係のものをいくつかあげます。

『地理・人文地理学に関する27年間の雑誌文献目録』1948-74 日外アソシエーツ 1982　『地理・人文地理学に関する10年間の雑誌文献目録』1975-84 同　1987 [530/652参考] 国立国会図書館監修「雑誌記事索引（人文・社会編）累積索引版」をもとに、地理・人文地理学に関する文献目録として再編集したもの。記載項目は著者名、論題、所載雑誌名、巻号、発行年月日、頁数。巻末に事項索引がある。

『地名関係文献解題事典』鏡味明克等編著　同明舎　1981　[140/392開架参考] 明治以降、昭和54年末までの日本における地名関係の論文、文献を収録（雑誌論文は昭和53年末まで）。各年ごとに書籍と雑誌論文に分け、題目の五十音順配列。巻末に著者名・執筆者名索引（個人のみ）、書名・論文名索引があり、いずれも五十音順配列。

『地理学関係文献目録総覧』自然・人文・社会1980-82 奥野隆史編　原書房　1985 [530/658開架参考]　国内刊行の書誌（単行書・単行書掲載記事、雑誌記事）の総覧。1部は文献目録・抄録集集覧の分類目録。第2部は雑誌名の五十音による雑誌総索引・総目次集覧。編著者名索引がある。

『地理学文献目録』1-8+　人文地理学会　大明堂　1953-　[3-8:530/391開架参考、1-8:530/135人地]　第１集1945年から第８集は1986年までの内容。継続刊行。日本で刊行された単行本、講座・叢書の類、雑誌所載の論文・資料・調査報告・書評・抄録・紹介、また講座・叢書・論文集所収の各論文など広範に収録。

検索例

Q．1983年の三宅島の噴火に関する資料にはどのようなものがあるか？

A．第８集(1982-1986)「4.地形 (9)火山・火山灰」「8.災害・公害 (7)火山災害」の項をみる。

8 災害・公害　127

（7）火山災害

○世界の火山災害	村山　磐	古今書院		82	
火山災害	荒牧重雄	学術月報	38-11	85	
火砕流とその災害	荒牧重雄	地学雑誌	95-7	86	
火山災害と災害予測図	荒牧重雄	測量	36-9	86	
最近300年間の火山爆発と異常気象・大凶作	近藤純正	天気	32-4	85	
磐梯山の噴火と災害	中村洋一	地理	28-4	83	
明治21年磐梯山噴火とその被害	菊池万雄	地理誌叢	25-2	84	
天明三年浅間山の大噴火と災害	沢口　宏	地理	28-4	83	
火山災害と生活環境 —1983年三宅島噴火を例にして	近藤道雄	地理学ノート(35(空間の環境研究会)		85	
三宅島噴火災害 —住民生活の視点から	渋谷良行	地理	30-2	85	

出版社、雑誌名など

出版年

雑誌論文などは巻数を表示する

『地方史文献総合目録』上下、索引　阿津坂林太郎編　巌南堂書店　1971-75　３冊　[517/1096開架参考] 昭和45年３月現在の内容。上巻は戦前編で、明治元年から昭和19年までに刊行もしくは手稿・手写された地方史6035タイトルを収録し所蔵館を示す。所蔵機関は 302機関。下巻は戦後編で、昭和20年から45年までの5500タイトル。所蔵機関は 222機関。索引は収録文献を書名の50音順配列。

『地理学研究のための文献と解題』石田竜次郎編著　古今書院1969[530/331人地] 戦後に刊行された単行書（翻訳書を含む）から約 600点を選んで解説。　巻末に著者名と書名索引。

『地理学関係文献目録』大塚地理学会　1937　[530/227人地]　昭和9,10年に発行された図書と雑誌論文を収録。

『最近地理学文献目録』耕崎正男編　古今書院　1931　[530/43人地]　明治から昭和６年までの編者個人の蔵書3200点の文献を収録。ただし雑誌論文のみ。

『家蔵日本地誌目録』正・続　高木利太編　1927　２冊[535/173開架参考，復刻版名著出版 1976:人地]　著者が集めた上代から現代までの地誌3079点を国別に収載し解説。名所記・紀行・考証・案内記・雑記等も収める。末尾に書名索引。

『古版地誌解題』改訂重刊　和田万吉編　大岡山書店　1933　[535/112開架参考]江戸時代に刊行された地誌紀行類87点を解説。　地誌の影印や書中の地図を多数収載してあるので，現地誌の形状をうかがうことができる。書名索引あり。

●事典・辞書

一般的な地理・地名情報であれば百科事典に広く収録されています。特に歴史的意義のある地名などは多角的でしかも比較的詳しく解説をしています。［参考］また漢和辞典『大字典』（上田万年等編　講談社1971）は多くの難読地名を収録しています。[130/757開架参考]

●年鑑

人文地理情報はしばしば変更があり、新しい情報でないと役にたたない時があります。新しい情報を補うときは各種年鑑類を用います。［参考］

●大系・図録

大系や図録は視覚的に理解を助け、比較的大部なセットもので、読みものとしてだけでなく、参考図書としても利用できます。［参考］

2. 自然地理・人文地理などについての情報……地理辞典・便覧

●地理学

『地理学辞典』日本地誌研究所　二宮書店1973[140/208開架参考] 自然地理、人文地理、地誌学に関する用語、内外の地理学者、地理関係機関、雑誌、著名な地理書を収録し解説。五十音順配列。英語、仏語、独語などの相当語を併記。各項末に内外の参考文献。付録「世界の国別主要地理学会」リスト。和文、欧文索引。

『最新地理学辞典』改訂版　藤岡謙二郎　大明堂1979[140/336開架参考]　小項目主義により各項目を選別し解説。五十音順配列。地図、図表を多く用いる。地名事項は本文から除かれており、補うために山岳・河川・湖沼・海岸・半島・島などの自然地理名、日本ならびに世界の都市、独立国、姉妹都市一覧や、地名に関する基礎的データ、地理年表・度量衡などは一括して付録に示す。欧文事項索引。

『ミリオーネ全世界事典』学習研究社1980　14冊　[140/396参考]　　イタリアのAgostini社が出版した *il Milione, Enciclopedia di tutti i Paesi del Mondo* (1975-79)を底本とする世界各国事典。日本語版製作にあたって内容を補充する意味で翻訳文に加筆補訂を行い、必要に応じ日本人の書下し原稿を使用している。各国別に総説、国家、国土、人口、都市、経済、歴史、文学、美術、風俗と習慣などの見出しのもとに解説。写真、図版も多用。

3. 地名とその所在・環境について……地名辞典

●自然地名、集落地名、歴史地名、産業地名、行政地名などを見出し語として、その所在、地形、気候、歴史、交通などについて解説している『地名辞典』があります。　地名の読み方がわからない時は、字画数索引を付す地名辞典や『地名読み方辞典』を検索します。

『現代日本地名よみかた大辞典』日外アソシエーツ1985　7冊[140/498開架参考]
郡、市、町、村及び指定都市の区、大字、字、丁目、通称名などの現行行政地名約３１万件収録。　収録典拠は（財）国土地理協会提供による「JIS 都道府県・市区町村コードによる全国町・字ファイル」。漢字の画数・部首順配列。第７巻が地名漢字の音読五十音順索引。

検索例

Q．長岡京跡のある向日市「鶏冠井町」は何と読むのか？

A．音読「けいかん」で７巻索引を引き、索引番号から本文をあたる。
あるいは、「鶏」の総画数から本文の目次を調べ、あたる。

索引

けいかい	軽海	〔44514〕
	慶開	〔49711〕
けいがい	畦刈	〔39541〕
けいかん	頃巻	〔40899〕
	恵館	〔42503〕
	罫乾	〔47210〕
	鶏冠	〔52915〕
けいき	茎崎	〔27983〕
けいきゅう	恵久	〔35063〕
	桂久	〔35453〕
	軽臼	〔44510〕
げいきゅう	迎久	〔23465〕

索引番号

本文（第６巻 P.9761 ）

52911 鶏谷内：にわとりがいうち（福島県安達郡安達町下川崎字鶏谷内：モカワサキ）
52912 鶏足：けいそく（宮崎県宮崎市池内町鶏足：ミヤザキシ　イケウチ
鶏足山：けいそくざん（愛知県東加茂郡足助町大字山ヶ谷字鶏足山ヨウ　オオアザヤマガイ）
52913 鶏知：けち（長崎県下県郡美津島町大字鶏知：シモアガタグン　ミ
52914 鶏林：とりばやし（福島県耶麻郡北塩原村大字北山字鶏林：ヤマクアザキタヤマ）
52915 鶏冠井町：かいでちよう（京都府向日市鶏冠井町：ムコウシ）

『地名よみかた辞典』日外アソシエーツ　1989[291/C/4開架参考］上記『現代日本地名よみかた大辞典』の収録地名から、約5,000 の難読地名と読みの種類が多い地名を選択し、さらに日常、目にふれる自然地名など約6,000 を追加。郡・市・区・町・村名は1989年1 月1 日現在のもの。漢字の総画順配列。巻末に音読索引。

『中・日・欧対照世界地名辞典』前田清茂、三好成美共編　天理大学出版部　1967［歴史、中国語、人地］　中国語の文献から世界の地名約7000を採録。漢訳名、カナ、原綴り名を記し、国名と経・緯度をそえる。カナ、欧字、漢字音、総画の各索引がある。

『角川日本地名大辞典』同編纂委員会編　角川書店　1978-　47冊及び索引の予定（続刊中）[140/310参考］　都道府県別に各１巻、別に索引をもって編成。各巻を総説、地名編、地誌編、資料編の４部門でもって構成。主体の地名編は古代から近代にかけての地名を網羅的に収録し五十音順に配列。

検索例

Q．足利高氏(のち尊氏)と関わりの深い京都「篠村」とはどういう所か？

A．26「京都府」上巻、総説・地名編 P.703「しのむら［中世］篠村荘」の項を見る。

３以上があった。明治元年京都府に所属。同３年一部は八幡町，残余は八幡荘の各一部となった。

しなのこうじ　信濃小路

平安期に見える通り名。平安京の最南部を東西に走る。道幅４丈。「拾芥抄」所収の西京図には多部井小路と見える。同書所収東京図によると信濃小路東洞院には九条太政大臣邸が方２町を占め，大宮には東寺，皇嘉門大路には西寺がそれぞれ同小路を中心に方４町を占めていた。都の最南部という地理的条件もあって邸宅街としても商業街としても発展をみず，おそらく平安京当初から空閑地が多分に見られたであろうと想像される。鎌倉期以来，信濃小路は道路の耕地化，すなわち巷所が進められ，南北朝期には東寺領巷所化が多く見られるようになった。「東寺百合文書」応安３年の東寺領巷所検注取帳によれば，信濃小路の堀川～大宮間を中心にして東寺領巷所が散在していたが，当時は平安京内というよりは，むしろ洛外農村的景観を呈していたに違いない。以後，江戸期になっても当小路の以上のような位置は変わらない。

しなのちょう　信濃町〈上京区〉

〔近世〕江戸期の町名。新烏丸通丸太町上ル下ルの町。初め椹木町通富小路西入の地にあったが，宝永５年の大火後御苑整備の一環として収公されて，町民は寺町通丸太町東入の地へ移住させられたので，町名は旧地のものをそのまま引き継ぎ信濃町とした。町名由来は，元禄年間町奉行水野信濃守の用邸があったことに

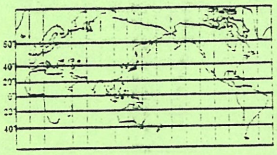
〔中世〕篠村荘　鎌倉期～戦国期に見える荘園名。桑田郡のうち。「吾妻鏡」文治２年３月26日条に「丹波国篠村庄」と見える。当荘はもと平重衡の所領であったが，平氏滅亡後，源義経に与えられ，義経はこれを文治２年に松尾延朗上人に寄付している。この延朗上人は俗名を義実といい対馬守源義親の孫で最福寺を建立した。はじめ義経の寄付を固辞したが，寄進後は年貢を取らず弥陀の宝号を唱えさせてその請取を与えたという（元亨釈書）。その後，上人より源頼朝に返され，頼朝は妹の一条能保室に譲っており，建久３年12月14日一条能保が亡室の所領20余か所を男女・子息に分与した中に「丹波国篠村領」と見える（吾妻鏡）。弘安７年の秋頃，一遍上人は京より山陰へ向かったが，「篠村といふ所」で宿していたところ，穴生より男女７，８人が迎えに来たという（一遍聖絵／続群９上）。当荘内にある篠村八幡宮は延久３年河内国誉田八幡より勧請されたと伝え，その後延朗上人が建立したという（南桑田郡誌）。元弘３年４月足利高氏（のち尊氏）はこの社頭で旗揚げをし，宮方として六波羅攻撃に向かった（太平記・保暦間記・梅松論・難太平記）。これより先，千種忠顕を大将軍とする官軍が京都に攻め入ったが，その際も当地が根拠地となっており，交通の要衝であったことが知られる（太平記）。なお元弘３年７月日付の岩王寺院主祐忍申状によれば，この年４月28日高氏が「篠村」に下向した際上杉憲房の奉行として祈禱を命じており（岩王寺文書），

『日本歴史地名大系』平凡社　1979-　47冊及び総索引、総説、分類索引の予定（続刊中）[534/315参考］　近世の独立村名と町名を基本にして、歴史的意味を持つ各種の地名、建造物を多く収録する。現行の都市町村大字ごとにまとめる。

『大日本地名辞書』改訂版　吉田東伍編　不冨房　明治40　　[140/8開架参考]
国郡、郷荘、領保、村里、社寺、名跡、山川等にわたって古書、詩歌、俳句などを引用して解説する。汎論・索引の巻には、国郡目次、五十音順かな索引に加え、頭字画引索引がある。（増訂版：1961-71　８冊［文学、歴史、人地、中国語］）

『日本地名大事典』渡辺光等編　朝倉書店　1967-68　７冊　　[140/172庫内]
地名１万3000について、地誌的情報に重点において解説。各巻末に解説中の地名も含む五十音配列の索引がある。全巻を通じての索引なし。

3．土地の位置、方角などについての情報……地図帳



●特定の土地の位置、面積、地域区分、隣接地域との境界線、他の土地からの距離、方向などを視覚的にとらえるために地図帳があります。たいていは地名索引を付けています。

地図は主として1980年以降に出版されたものを［参考］コーナー内の地図棚に別置しています。コンパクト版は［開架参考］にあります。

世界地図は、『世界大地図帳』平凡社 1990、『グランド新世界大地図』全教出版1989、『世界大アトラス』小学館 1989、『スタンダード・アトラス世界』平凡社 1987、『最新総合大地図』小学館 1984(日本大百科全書)、『旺文社 世界大地図』旺文社 1980、『世界大地図』小学館 1972(ジャポニカ大百科事典)の他、『Atlas of the Third World』New York,N.Y.,Facts on File.1983、『National Geographic atlas of the world』5th ed.Washington, D.C.,National Geographic Society,1981、『The Times atlas of the world』6th ed.London,Times Books,1980、『World atlas』classic ed. Maplewood,N.J., Hammond,1970、『Pergamon World Atlas』Oxford,Pergamon,1968があります。

日本地図は、『日本大地図帳』平凡社 1990、『スタンダード・アトラス日本』平凡社 1987、『ホームアトラス日本列島』日本リーダーズダイジェスト 1982、『日本大地図』小学館 1971(ジャポニカ大百科事典)があります。また、年刊で各県ごとに一般地図・観光道路地図・都市図、全県図・主要市街図、地名総覧、公共施設一覧などを載せる『日本分県地図地名総覧』人文社 や、この他同じく人文社の『日本都市地図全集』『京阪神市街地図集』『京阪神区分地図集』『東京都地図地名総覧』『奈滋和市街地図集』があります。

『京都市街地図』は京都コーナーに排架しています。

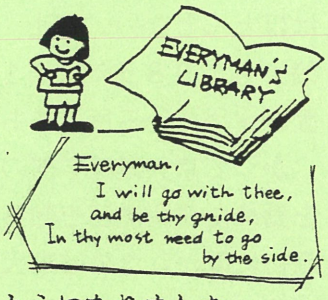
お知らせ　その1.

1990年の夏から、**洋書について次の３点を改善。**
どうぞご利用ください。

①開架図書室内の「洋書コーナー」の位置がかわり、明るく見やすくなりました。

②『Everyman's Library』が書庫内図書から開架図書にかわり、直接見て選べるようになりました。

（『Everyman's Library』とは
評論家・編集者アーネスト・リースの企画によって
1906年に創刊。イギリスのもっとも普及した叢書の
一つで、英米を主としてヨーロッパ近代の名作、
古典作品を収録している。ポケット版。Dent, London.）



③今年度から洋書新刊書が以前より多く図書館で見られるようになりました。

その2.　１階閲覧室への入退館の方法がかわります

荷物の持ち込みＯＫ。
利用者は開架図書を自由に選択したり、
その場で読むことができるようになります

1991年度から入退館方法がかわります。

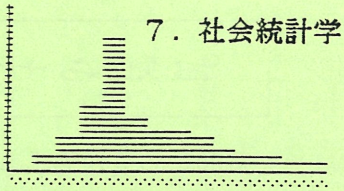
１階は附属図書館と同じように、入館ゲートに図書館利用証を挿入し、バーを押して入るシステムになります。

これまでの教養部図書館は「開架図書室」と「閲覧室」が分離していましたので、「開架図書室」に入るとき、また「開架図書室」から図書を持ち出すときにも手続きが必要でした。「手続きが面倒だ」と利用者の方からの声も寄せられていました。

今回、新しい入退館システムとブックディテクションシステム(Book Detection System) を導入することにより、１階では、開架図書を自由に選択したり、その場で読むことができるようになります。もちろん荷物も持ち込み可能となります。
館外貸出の手続きは退館するときに行えばＯＫです。

今年の３月はその準備で臨時に休館します。どうぞよろしくご協力下さい。
詳しくは開館日程表をご覧ください。

教養部図書館



蜷川虎三著『統計学概論』

もう半世紀以上も昔の１９３４年、蜷川虎三は統計学への手引書として『統計学概論』を書いた。西田『哲学の根本問題』にはじまる岩波全書の一冊としてであり、蜷川の著書はその２１番目だった。この初期の岩波全書で現在なおそのまま刊行されているものはほとんどない。和辻『人間の学としての倫理学』が例外的存在であるが、『統計学概論』も１９８５年に第１２刷として再刊された。わが国統計学史にモニュメンタルな位置を占めている所以である。

かつて京大経済学部の統計学教授であり、１９５０年からは７期２８年も京都府知事を勤めた蜷川虎三を知らない京大生が多くなった。実は日本の国立大学で統計学講座が最初に置かれたのは東大の経済、続いて京大の経済（ただし当時は法科大学）であった。明治の中頃であり、両大学とも１９世紀後半ドイツで発展した社会統計学を基礎においていた。京大経済の２代目統計学教授であった蜷川は、人口や企業集団のように客観的に存在する社会集団を対象とする社会統計学を、標本－母集団のように方法の要請によって構成された集団を対象とする数理統計学から区別し、その上で国勢調査のような社会集団に関する統計調査の構造を社会科学的に分析してみせた。

しかし蜷川は、統計の利用では、統計調査の結果数字を時系列的に並べ一定の加工を加えたとき安定したきれいな規則性をあらわす場合があり、この統計的法則をとらえることが統計的研究の目的だとした。蜷川は社会統計学の基礎の上に数理統計学を包摂しようとしたのであろうが、統計利用においていわゆる大数法則があらわれるように構成された集団と、統計調査において社会的に存在するとされた集団とはついに統合されぬまま、結局この著作は二元論的構成から抜け出ることができなかった。大きな矛盾を内包していることが逆に大きな影響を後世に及ぼすという、多くの古典に見られる特質をこの本も持っていたというべきであろう。蜷川逝って明春で丸十年、秋には五年ぶりの国勢調査も行われる。今回は膨大な外国人労働者をどう調査するかをめぐり、調査そのものが社会問題化しつつある。この際ぜひ読んでほしい本である。なお、１９８５年版には内海庫一郎氏のくわしい解説が付せられており、よい手引きとなっている。

（経済／吉田　忠）

＊この原稿は1990年8月にいただいたものです。掲載が遅れましたことをお詫びいたします。　教養部学術調査委

教養部の所蔵紹介　『統計学概論』蜷川虎三著　岩波書店

初版1934年　[010/51,350/T/01,350/T/02,350/T/0開架]（1985年版絶版のため、内海氏の解説を複写し付す）

12刷1985年　[340/630経済]